

3. 先々月・先月の両園地探鳥会

①くろんど園地(9月) 4ヶ月ぶりのくろんど園地探鳥会、園地へ上りの暗い林にキビタキがいてゆっくりしてくれたので、ほぼ全員で観察できた。コサメビタキ・オオルリ・センダイムシクイなど渡りの小鳥や、エナガの群が出てくれた。例年9月はサシバを観察しているが、昨夜の雨の影響か、タカは飛ばなかった。

(交野を通過するタカの供給元、京都岩間山のサシバ+ハチクマが25羽とのことで、たまに空を見上げる探鳥会で観察できないのはやむを得なかったと思われる。)

くろんど池近くで「タカ」との声、しかしキジバトで最後までタカは出なかった。

②ほしだ園地(10月) あちこちでモズの高鳴きが続き、私市植物園近くの天野川で冬鳥ジョウビタキをゆっくり観察、しかも植物園内の樹上から両園地探鳥会では初のオオムシクイの声など、平地では次々鳥が出てくれた。山地の遊歩道に入って鳥影は少なく、しかも目玉のハヤブサを見た人は、ほしだ園地・吊り橋に行かず、ピトンの小屋周辺でハヤブサを見守っていた人のみでした。帰りに尺治川橋付近のスズメの群の中に、ニュウナイスズメ1羽を確認し、ようやく盛り上がった。

4. 日本野鳥の会大阪支部からのお知らせ

①北河内・定例探鳥会の(12月度)案内

ジョウビタキ・ルリビタキなど小鳥、そしてヒドリガモなど冬鳥の第一陣が到着する季節、山野も水辺も鳥が賑やかになります。

曜日 (月日) 場所 集合時間・場所

第1(日)(12/6) 牧野(淀川) 9:00 京阪牧野駅穂谷川堤防

第2(日)(12/13) 山田池公園 9:30 現地北入口駐車場

第3(土)(12/19)緑の文化園 9:00 JR学研都市線四条畷駅東口

第4(土)(12/26) ほしだ園地 9:30京阪交野線私市駅前

②日本野鳥の会入会時の会費

会員区分 (内容)	おおぞら会員 (本部+支部)	赤い鳥会員 (支部のみ)	むくどり会員 (支部・1年間のみ)
年会費	7500円	3500円	1000円
入会金(初年度のみ)	1000円	1000円	—
会報 隔月刊(支部) 月刊(本部)	「むくどり通信」 「野鳥」	「むくどり通信」 —	「むくどり通信」 —

③7月探鳥会参加費 (探鳥会保険・資料代に充当)

会員100円、非会員200円、高校生以下は無料

(交野野鳥の会会員で、日本野鳥の会に未入会の方 200円お願いします。)

「ころんで痛いのは自分だけ、怪我しないよう自己管理」

府民の森“くろんど園地”探鳥会

(毎月第4土曜日 両園地通算第190回)

平成27(2015)年11月28日(土) 9:30~15:00

日本野鳥の会大阪支部 平軍二(090-6901-1425)・
友田武・神戸徹・田上信博・小田原正明・斉藤健

1. 交野市の鳥シリーズ(50) ツグミ(鶇)

11/13の交野バードに松村万知子さんのツグミが公開されました。冬鳥で一番ポピュラーと思っているツグミが、年々少なくなっているように思われるので、ツグミ到来のニュースを聞くと嬉しくなります。今回はアキグミの赤い実を啄んでいたようで、木の実の好きなツグミの生活がわかる写真でした。



シベリアから到着したばかりの頃のツグミは、日本

のように人の多さに慣れていないことから、先ずは山地でゆっくり、平野部に下りてからも高い木や、木の実のある樹冠で静かに生活していて気づきにくいですが、時に「クェツ・クェツ」の声で渡来したことを教えてくれます。

お正月が近づく頃木の実が少なることもあって地上に降り、昆虫など餌を探すとき「何歩か歩いて胸を張って立ち止まる」という特徴ある行動を繰り返す。

万博公園で見ていると、液果(色づく木の実)が好きなツグミが最初に訪れる木はクスノキ→トウネズミモチ(黒色)→センダン(黄白色)→ピラカンサ類(赤色→黄色)→クロガネモチ(赤色)と続き、鳥の少ない年はクロガネモチが残ります。

このツグミ、渡ってきた途端にカスミ網で一網打尽、焼鳥屋へ直行という暗い過去を持っていましたが、今は野鳥保護思想の高まりで、密猟は少なくなっていると思われます。

2. 探鳥会観察種チェックリスト

科名	種名	2015					科名	種名	2015						
		年月日	8	9	10	11			12	年月日	8	9	10	11	12
		回数No	ほし	くろ	ほし	くろ			ほし	回数No	ほし	くろ	ほし	くろ	ほし
		188	189	190	191	192			188	189	190	191	192		
キジ	ヤマドリ	4					タカ	トビ	342						
キジ	キジ	5					タカ	ツミ	354						
カモ	ハクチョウSP	19					タカ	ハイタカ	355						
カモ	オンドリ	24					タカ	オオタカ	356						
カモ	ヨシガモ	27					タカ	サシバ	357						
カモ	ヒドリガモ	28					タカ	ノスリ	358						
カモ	マガモ	30					カワセミ	カワセミ	383	1		4			
カモ	カルガモ	32					キツツキ	コゲラ	390	2	6	5			
カモ	ハシビロガモ	34					キツツキ	アカゲラ	393						
カモ	コガモ	38					キツツキ	アオゲラ	397	1					
カイツブリ	カイツブリ	62					ハヤブサ	ハヤブサ	407	2		2			
ハト	キジバト	74	9	10	6		サンショウクイ	サンショウクイ	412						
ハト	アオバト	78					カササギ	サンコウチョウ	418						
ウ	カワウ	127					モズ	モズ	420		3	7			
サギ	ゴイサギ	139					カラス	カケス	427						
サギ	ササゴイ	141					カラス	ハシボソガラス	435	3					
サギ	アオサギ	144					カラス	ハシブトガラス	436	16	17	5			
サギ	ダイサギ	146					カラス	キクイタダキ	438						
サギ	コサギ	148					シジュウカラ	コガラ	441						
クイナ	バン	174					シジュウカラ	ヤマガラ	442	1	6	9			
クイナ	オオバン	175					シジュウカラ	ヒガラ	443						
カクウ	ホトギス	185					シジュウカラ	シジュウカラ	445	2	3	4			
カクウ	ツツドリ	187					ツバメ	ツバメ	457	9					
アマツバメ	アマツバメ	192					ツバメ	コシアカツバメ	459	2					
アマツバメ	ヒメアマツバメ	193					ツバメ	イワツバメ	461						
チドリ	ケリ	195					ヒヨドリ	ヒヨドリ	463	16	25	28			
チドリ	コチドリ	203					ウグイス	ウグイス	464	1	1	1			
シギ	イソシギ	244					ウグイス	ヤブサメ	465						
ミサゴ	ミサゴ	339					エナガ	エナガ	466	8	24	13			
タカ	ハチクマ	340					ムシクイ	オオムシクイ	476			1			

科名	種名	2015					科名	種名	2015						
		年月日	8	9	10	11			12	年月日	8	9	10	11	12
		回数No	ほし	くろ	ほし	くろ			ほし	回数No	ほし	くろ	ほし	くろ	ほし
		188	189	190	191	192			188	189	190	191	192		
ムシクイ	メボソムシクイ	477					セキレイ	セグロセキレイ	575			3			
ムシクイ	エゾムシクイ	479					セキレイ	ピンズイ	580						
ムシクイ	センダイムシクイ	480		1			アトリ	アトリ	588						
メジロ	メジロ	485	11	18	10		アトリ	カワラヒワ	587	1		3			
ヨシキリ	オオヨシキリ	482					アトリ	マヒワ	588						
レンジャク	ヒレンジャク	501					アトリ	ベニマシコ	592						
ミソサザイ	ミソサザイ	504					アトリ	ウソ	599						
ムクドリ	ムクドリ	506		1	10		アトリ	シメ	600						
ムクドリ	コムクドリ	508					アトリ	イカル	602						
カワガラス	カワガラス	512					ホオジロ	ホオジロ	610		4	2			
ヒタキ	トラツグミ	514					ホオジロ	カシラダカ	617						
ヒタキ	マミチャジナイ	520					ホオジロ	ミヤマホオジロ	618						
ヒタキ	シロハラ	521					ホオジロ	アオジ	624						
ヒタキ	アカハラ	522					ホオジロ	クロジ	625						
ヒタキ	ツグミ	525					キジ	コジュケイ							
ヒタキ	コマドリ	530					ハト	カワラハト(ドバト)							
ヒタキ	ルリビタキ	538					チドリ	ソウシチョウ							
ヒタキ	ジョウビタキ	540			6										
ヒタキ	ノビタキ	542													
ヒタキ	イソヒヨドリ	549													
ヒタキ	エゾビタキ	552													
ヒタキ	サメビタキ	553													
ヒタキ	コサメビタキ	554		3											
ヒタキ	キビタキ	558		2	2										
ヒタキ	オオルリ	581	1	2											
イワヒバリ	カヤクグリ	586													
スズメ	ニューナイスズ	588			1										
スズメ	スズメ	589	73	4	81										
セキレイ	キセキレイ	573	2	1	4										
セキレイ	ハクセキレイ	574	4	1	9										
観察種数合計			20	19	23										
個体数			165	132	216										
天候			晴	曇	晴										
参加者			18	20	25										

秋～冬、小鳥は木の実に

色鮮やかな液果は鳥に食べに来てほしいと植物側からの合図。

地味な色の乾果は鳥が実の栄養価に目をつけ集まってくる。

12/16(水)琵琶湖・伊庭内湖 カシラダカ・オオジュリン

集合:9:30JR琵琶湖線・能登川駅改札前 解散:14:30 頃同駅

内容:戦前、戦中の食糧増進に計画された、琵琶湖の内湖・大中の湖の干拓が1966年に完成し、池の一部が水路として残されました。内湖周辺は、水車公園やカヌーランドなどレジャー施設として利用されている所もありますが、大部分はヨシ原で覆われ、カモや猛禽類、草原の小鳥類が観察できます。

連絡:090-2389-2743 (松岡三紀夫氏)

12/17(木)万博記念公園・木の実と鳥

集合:9:30 万博公園中央口 解散:14:00 頃 自然文化園内

(万博定例探鳥会集合場所に同じ。エキスポシティ開業で交通渋滞可能性有)

内容:万博公園は平が木の実と鳥の関係を学んだ探鳥地。万博公園で観察できる木の実30種ほどについて、鳥との関係を解説します。説明中に鳥が来てくれるということなしですが?

連絡:090-6901-1425 g-hira@nifty.com (平 軍二)

カラー資料の過不足をなくしたいため、参加される場合連絡下さい。